

炉心槽割れ事象対応に係るスケジュール（案）

	2022年度	2023年度				2024年度				2025年度				2026年度				2027年度～
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
		▼11 HBロビンソン2 OE ▼12 当該炉定検終了 ▼2 米国産業界検討チーム発足 ▼5 米国暫定ガイド制定				▽5 米国暫定ガイド発効												
1. 炉心槽溶接線の詳細検査（MVT-1、UT）装置の製作等																		
PWR電力共同委託による、検査装置の製作、モックアップ実証、要員トレーニングの実施																		
2. 炉心槽健全性評価手法、非破壊検査判定基準の整備																		
< ベースケース >																		
PWR電力共同委託による炉心槽健全性評価手法、非破壊検査判定基準の検討																		
JANSI炉内構造物点検評価ガイドライン「炉心槽」作成																		
JSME維持規格																		
< 早期詳細検査ニーズ発生ケース > ※																		
産業界にて健全性評価手法、非破壊検査基準を至急文書化、NRAへ暫定基準として提案、協議																		
炉心槽上部周溶接線の詳細検査（内面MVT-1、外面MVT-1（炉心槽吊り出し定検時））、傷検出時はUT実施																		

原則として、BWRシュラウドと同様、維持規格制定・エンドースを目指す。

ガイドライン制定
▽#83検討会（制定の考え方）
▽#84検討会（制定案）
▽#85検討会（発行承認）
規格制定
評価作業会→維持規格分科会→原子力専門委→規格委

NRA技術評価

暫定基準協議

早期詳細点検ニーズ発生の場合、委託成果を早期に文書化し、NRAへ暫定基準として提案、協議→検査

詳細検査

※ HBロビンソン発電所での原因調査結果（2024年度下期以降に判明の可能性）や、米国の他ユニットの点検結果により、国内ユニットにおいても早期に詳細点検を実施することが必要な経年劣化事象であると判断される場合